

JWFファンド2019 実施概要

5.ハイチ

- 団体Hôpital Albert Schweitzer Haiti (HAS) (#263)
- 期間:2019年12月~2020年4月
- 実施地:ハイチ、アルティボニット県
- 費用:1,000ドル(JWFファンド1,000ドル)
- 受益者数:30,000人
- 実施地の水問題:

実施団体Hôpital Albert Schweitzer Haiti (HAS)の既存給水設備は欠かせないものであるが、60年以上にわたって使用されている。2018年に総合的な計画を含めた設備の診断を実施した。その結果、給水設備配管の腐食による漏水が起き、また目詰まりにより水量が減少している事が分かり、修理が必要であった。

- 主な活動内容:

給水設備4基の新設、破損していた給水設備2基の修繕、住民のプロジェクトの実施と管理への関与促進



水が流れ続ける古い給水設備
(乾季・プロジェクト実施前)



工事中の給水設備

JWFファンド2019 フォローアップ結果

5.ハイチ

2021年3月現在

【現状】

- **給水設備**…6基の給水設備はどれも機能しており、安全な水を供給できている。
- **維持管理**…地域水委員会が給水設備と周辺の適切な利用と維持管理を担っている。

【変化】

- **病気の減少**…統計はないが、医師は子どもの罹患率・死亡率は減っていると考えている。

【その他】

- 人が集まるので、COVID-19対策の消毒液を配布する場所として活用された。
- 元々住民たちの助け合い意識が高い。きれいな水の重要性を理解しているため、責任感を持って住民が設備を管理している。
- 予想外の影響や住民たちの争いは起きていない。



JWFファンド2019 フォローアップ結果

5.ハイチ

2021年3月現在

現場からの声(抜粋)



Henry Bastistさん
(45歳、シティ村の村長)

6基の給水設備はどれも使えていて、村人たちは協力して水を共有しています。4、5歳の子供が一人で水を汲んでいることも珍しくありません。人々はお互いに気を付けあっています。プロジェクト完了後、良い水が手に入るようになったことで、遠くまで水を汲みに行く必要がなくなりました。

市場で働く人の中でも、水を使えるようになったことで調理器具を洗ったり、調理用の水の調達が楽になりました。



Eda Samsさん
(35歳、ハンドポンプの利用者)

給水設備は使いやすいです。調子が悪い時は、蛇口を取り換えたりしています。プロジェクト完了後は、2人の子供に水を飲ませる前に煮沸する必要がなくなり、費用の負担も減りました。



Amos Belzairさん
(52歳、ハンドポンプの利用者)

私は農家で5人の子供がいます。プロジェクト完了後、私の妻と子供たちは遠くまで水を汲みに行く必要がなくなりました。水が美味しくなったことを実感しています。煮沸させる必要もないので、木炭の費用がかからないのも嬉しいです。今では家族が必要とする水を給水設備から得られています。